

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果

〈国語〉

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)	
全体		14	64	66	67.2	
学習指導要領の 内容	知識及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	69.5	70.1	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	67.2	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、 判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.5	70.4	72.6
		B 書くこと	1	19.7	25.6	26.7
C 読むこと		3	66.1	70.4	71.2	
評価の観点	知識・技能	7	68.9	68.5	68.9	
	思考・判断・表現	7	58.8	64.0	65.5	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	69.9	73.4	73.6	
	短答式	2	65.6	61.2	62.7	
	記述式	3	44.3	48.2	51.1	

〈分析〉

○知識及び技能に関する問題の正答率が県平均よりも高く、全国平均と同じであった。

▲思考・判断・表現に関する問題の正答率が神奈川県及び全国平均よりも5～6%低い結果となった。

〈改善に向けての手立て〉

習得した知識を活用し、表現していく場面を増やすことにより、思考力・判断力・表現力を高められるように指導していく。また子どもたち同士が話し合いながら協同的に学習を進め、互いの表現力を高めていく姿を目指したい。

〈算数〉

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	神奈川県(公立)	全国(公立)
全体		16	60	63	62.5
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	65.8	67.1	67.3
	B 図形	4	45.5	50.0	48.2
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	70.9	72.3	70.9
	D データの活用	3	58.5	65.2	65.5
評価の観点	知識・技能	9	66.3	67.8	67.2
	思考・判断・表現	7	51.5	57.2	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	55.4	59.2	57.7
	短答式	7	74.9	74.8	74.7
	記述式	4	38.9	47.8	47.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

〈分析〉

○答えを直接問われる形式の問題の正答率が高く、基本的な計算力が身に付いている児童が多い。

▲複数の図やグラフを見ながら解決する必要がある問題の正答率が低い傾向が見られた。問題の内容を把握し、必要な情報を活用していく力に課題があると考えられる。

〈改善に向けての手立て〉

文章題の中で問われていることは何なのかをクラス全体で共有する時間を増やしていく。また授業の中で「自分で考える時間、近くの友達と考える時間、全員で考える時間」と、様々な形態の交流を行っていきたい。